

さて、新潟大学教育学部同窓会は、平成二十五年に六十周年を記念して、櫛谷事務局長の御尽力で「同窓会の歴史」という冊子を発行いたしました。これまでの歴史を踏まえ、新たな前進の時を迎えるべき課題もいくつか出てきました。

教育学部同窓会のよりよいあり方を求めるとともに、大学との連携を重視しながら同窓会活動の一層の充実を目指すため、評議会で本年度の活動の重

見をもつて自校の課題を教職員および地域社会との協働により組織的に解決するマネジメント能力とリーダーシップを兼ね備えた教員の育成を目指します。つまり、次代を担うスクールリーダーを養成する教職大学院となります。二年間の研修のためには、学校体制でのバックアップが大切ですが、是非とも同窓生の中から教職大学院へ挑戦する現職教員を送り出したいと考えています。

平成二十七年六月七日の評議会で、第十七代教育学部同窓会長を拝命いたしました。前任の安達徹会長はじめ歴代の会長、諸先輩方が築き上げてこられた六十年という長い歴史のある同窓会です。「同窓生同士の親睦と母校の発展に寄与すること」を目指し、微力ではありますが、精一杯、任期を勤めさせていただく所存ですので、どうぞよろしくお願ひいたします。

点五点を承認していただきました。そのうちの三点について紹介いたします。

教育学部同窓会の前進のために



教育新報

新大教育学部同窓会
第 169 号
行人 白 杠 勇 人
局 新潟大学
教育学部内
TEL(025)263-6760
所 (株)文久堂

二つ目は、学生への支援をどのようにしていくかです。現在教育学部に在籍する学生からは、永年会員として入学時に同窓会に加入いただいており、その数は、二千名を越えました。現在の学生会員に対して、どのような支援をしていくか、学生のニーズを把握しながら考えていきたいと思います。また、永年会員が卒業して全国に羽ばたいて二年目になります。全国に散らばっている卒業生が互いに連絡を取り合って、旧交を温め合うなどの活動が活発化し、その情報を同窓会として把握し、情報発信できないか検討していきたいと考えています。

五十代ともなると、集まる度に出てる話題は体の事。健康を維持するにはどうするかという話で盛り上がる。運動を進める人もいれば、食事に気を付けることが一番だという人もいる。しかし、どんなに気を付けても昔のような体は維持できないという結論に達する。そして話はそれだけでは終わらず、次第に各自の病気の自慢大会が始まる。「同じだよ」と、うなずいたり、自分はまだまだだと思つたり。さらに、話題はいつしか病気から、ほけることへの漠然とした不安に及ぶ。

三つ目は、O B会員の活動支援です。教職を退いた後も同窓会員として、「様々な活動に参加していただきたい」と考えて相談にのつていただきたい」と考えています。その際、活動のベースとなる組織が必要です。そこで、生活根拠地に基づく支部組織の再構築が必要となつてきます。生活している地域の支部に所属し、支部活動の一翼を担つていただければ、同窓会の活動も充実していくと考えています。

会員の皆様の御理解と御支援を心よりお願い申し上げます。



五十代ともなると、集まる度に出る話題は体の事。健康を維持するにはどうするかという話で盛り上がる。運動を進める人もいれば、食事に気を付けることが一番だという人もいる。しかし、どんなに気を付けても昔のような体は維持できないという結論に達する。そして話はそれだけでは終わらず、次第に各自の病気の自慢大会が始まる。「同じだよ」と、うなずいたり、自分はまだましだと思つたり。さらに、話題はいつしか病気から、ほけることへの漠然とした不安に及ぶ。

そんな中で、ある人が「ほけずに長生きするコツは「きょういく」と「きょうよう」だと教えてくれた。想像力の乏しい私は、「教育と教養?」でもほけ防止は学ぶことだけ?と思ついたら、まるで違っていた。「きょういく」は「今日行く所がある」と「きょうよう」は「今日用事がある」ことらしい。なるほど。学校へ足を運んでくださる学習ボランティアの方々のはつらつとした姿を思い浮かべ、一人で納得。あの方々の行動力は町内の役員から趣味の世界の習い事まで幅広い。そして何よりも友人が多い。退職後は自分も斯くありたいと思う。

評議会の報告

六月七日(日)、新潟教育会館を会場に、木村政伸教育学部副学部長様、顧問の藤井保男様を来賓に迎え、同窓会の評議会が開催された。

昨年度同様、評議会の前に支部長会、学科代表者会が行われた。

評議会では、平成二十六年度会務報告・会計決算報告があり、二十七年度本部役員が承認された。続いて本年度の活動の重点と各専門部の活動計画、予算案の提案があり、慎重審議の末、いずれも全会一致で承認された。



あいさつする安達徹前会長



祝辞 木村政伸副学部長

いという力強いお話を聞いた。



あいさつする臼杵勇人新会長

二十七年度活動の重点

教育学部のよりよいあり方を求めるとともに、大学との連携を重視しながら同窓会活動の一層の充実を目指す。

一 「同窓会の集い」の充実

- 内容を講演会とし、学科を中心とした絆強化の機会とする。
- できるだけ大勢の参加を目標に、講師、会場、時期を検討する。

三 組織の充実と強化

- 県外の同窓会同士のつながりを支援する。
- 各部の事業・各支部が活動を下に会員の帰属意識の向上を図る。会員を把握する。

四 大学との連携

- 母校発展のための支援を推進する。
- 学部教官の同窓会活動への参加を働き掛ける。
- 教職大学院への支援を進めていく。(会員への周知も)



評議会風景

五 全学同窓会との連携

- 全学同窓会交流会への参加を促す。
- 「新潟大学カード」の加入者・利用者を増やす。
- 全学同窓会賛助会費の納入を促進する。

図る。適宜更新を行い、最新の内容を載せるように努める。

より親しまれる「教育新報」を目指し、内容の一層の充実を図る。

大学との連携の観点から、大学(大学院・教職大学院)の情報を載せる。

その後、臼杵勇人新会長から、次のように二十七年度の活動の重点が示された。

- 会員への情報提供及び情報交換の場として、ホームページの活用を

平成二十七年度 専門部活動計画

◆ 研修部

部長 渡辺 真也



◆ 広報部

部長 本多 郁代



◆ 組織部

部長 笹原ミヨシ



◆ 交流部

部長 小竹 智



一 研修部活動計画

研修部では、同窓生が親睦を深めるとともに自己の人的な資質を高めることを目的に本年度の活動を以下のようになに計画いたしました。多数の皆様の参加をお願いいたします。

二 活動内容

「第四十一回 同窓生の集い」

- ・期 日 九月二十六日（土）
- ・会 場 ホテルラングウッド新潟
（旧チサンホテル）
- ・講演会（二時十五分）
- ・講演会（三時四十五分）
- ・新潟駅南口直結

三 お願い

- （今、海外は安全なのか）
- （日本人が気を付けなければならないこと）

講師 伯耆田 修 様

外務省 領事局海外邦人安

全課 邦人援護官

・懇親会（四時～六時）

申込等詳細は十ページをご覧ください。

一 基本方針

○同窓会の活動や会員、大学等の様子を紹介することにより、同窓会の士気を高める。

○大学との連携をより一層密にした広報活動の推進を図る。

二 活動内容の概要

○「教育新報」年間二回発行

○第一六九号（七月二十日発行予定）

○評議会の報告

○第二七年度活動計画（各専門部長）

○支部・学科代表者会の報告 本部

○役員、支部長、学科代表一覧

○二十六年度決算報告

○二十七年度予算

○学部・首都圏同窓会の活動紹介

○大学教官の異動及び大学のコーナー

○「同窓生の集い」の広報

○第一七零号（二月二十日発行予定）

○「同窓生の集い」の報告

○第一七零号（二月二十日発行予定）

一 活動の重点

- ① 支部及び学科との連携を図り、会員の連帯意識の高揚に努める。
- ② 永年会員とその保護者に対して、同窓会活動への理解を得るよう努める。

○（今、海外は安全なのか）

○（日本人が気を付けなければ

ならないこと）

○（今、海外は安全なのか）

○（日本人が気を付けなければ

ならないこと）

二 活動の内容

① 支部長会の開催

平成二十七年六月七日（日）

○支部の状況と課題、会費納入など

○情報交換を学科代表者会と同時程

で別室において行う。

② 学科代表者会の開催

平成二十七年六月七日（日）

○学科の状況と課題、学科の集いの

開催などの情報交換を行う。

二 教育学部の学生・卒業生の就職活動への支援体制の整備

○学生・卒業生の就職活動への具体的な支援について、話し合い、対応策を考え、連携・協力する。

三 会員への働き掛けと資質・指導力の向上

○永年会員への働きかけや交流の仕方について検討する。大学との連携を深め、会員の資質や指導力向上に資する。

四 当県の各種教育関係機関、他団体等との連携促進

○全学同窓会交流会への参加など

○交流部は、今年度も次のような活動を計画しています。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

一 新潟大学教育学部教職員と同窓会役員との「懇談会・懇親会」の開催

○教職大学院関連を含む学部の現状

○主な取組

○卒業生の就職状況や現場との連携

○同窓会の活動への提言など

二 教育学部の学生・卒業生の就職活動への支援体制の整備

○学生・卒業生の就職活動への具体的な支援について、話し合い、対応策を考え、連携・協力する。

三 会員への働き掛けと資質・指導力の向上

○永年会員への働きかけや交流の仕方について検討する。大学との連携を深め、会員の資質や指導力向上に資する。

支部・学科代表者会の報告

平成二十七年六月七日（日）、十三時から新潟教育会館において、支部長会、学科代表者会を開催致しました。お忙しい中、多くの方々から出席いただきました。

なお、当日は別室にて支部長会、学科代表者会を同時に行いました。



支部長会



支部長会

支局長会

三十四支部 の支部長が出

三十四支部
中二十一支部
の支部長が出
席されました。

A black and white photograph of a woman with short dark hair and glasses, wearing a light-colored cardigan over a dark top. She is seated at a desk, looking down at some papers. A microphone on a stand is positioned in front of her.

会員の情報を得にくくなつてきて、事務局からも「会員はもちろん学校代表もわからない状態での計画はできない」との意見も出されました。

最後に事務局から、色々な困難はあるが、支部・学科・同期と人数に關係なく「会」を開催すれば助成金が出るので、ぜひ活用してほしいとの話で会を閉じました。

学科代表者会

十三学科の代表者が出席されました

本間副会長の挨拶の後、各学科の代表者から一言ずつ話ををしていただきました。学科の会の開催の有無や内容、大学の教官や学生とのつながり、学科としての会費納入の現状、名簿の作成等の内容でした。

毎年のように学科の集いを開催している学科、同窓生だけでなく、大学の教官をお招きしたり、学生に案内を出したりして絆を広げている学科もありました。また、内容も、講演会、研究

が、学校代表者等の了解を得ながら支
部長に代表者名を知らせることができ
るよう努力するとの回答がありました

また、支部長の交代・引き継ぎについての現状や課題などが支部長から出

さされました。個人的に弓組者を扱っている現状があり、その際にも会員把握ができないための苦労があるとのことでした。昨年から社会に出て永年会員の把握については、永年会員証を発行したことなどもあり、特段の問題は出

ませんでした。

最後は事務局から 色々な困難はあるが、支部・学科・同期と人数に關係なく「会」を開催すれば助成金が出るので、ぜひ活用してほしいとの話で会を閉じました。

学年表

発表会、卒論発表会への参加、懇親会等いろいろでした。今年こそ開催したいという学科や名簿作りからのスタート



学科代表者会

との支部長会と同じような悩みも出されました。どの学科にも共通した悩みは、会員との連絡に経費がかかるということでした。せっかくの助成金がその経費で消えてしまう、若い人にはメールで案内を出しているといった学科もありました。助成金を増やしてほしいとの要望が出されました。

様々な意見交換が行われ、有意義な会となりました。

(組織部長 笹原ミヨシ)

平成27年度 同窓会本部役員

(任期は27~28年度)

役職	氏名	支部	校名など
会長	臼杵 勇人	新潟北	葛塚東小学校
副会長	山下あい子	新潟西蒲	岩室中学校
	本間 正人	新潟東	中野山小学校
	村川 孝子	新発田	猿橋小学校
	高橋 和人	長岡西	大島小学校
事務局	柳谷 秋男	新潟西	教育同窓会事務局
	滝澤恵美子		
専門部	◎渡辺 真也	新潟秋葉	矢代田小学校
	○小泉 慎子	新潟中央	鏡淵小学校
	福田 愛日	新潟中央	万代長嶺小学校
	塚本 弓子	新潟中央	日和山小学校
	渡邊 祐哉	新潟北	早通中学校
	○本多 郁代	新潟南	庄瀬小学校
	○金子 義則	新潟南	庄瀬小学校
	江口 範文	小千谷	小千谷小学校
	佐藤紀代子	新潟西	山田小学校
	國井恒太朗	新潟西蒲	巻南小学校
広報部	○笛原ミヨシ	長岡西	下川西小学校
	○内木 正宏	新潟西	赤塚小学校
	本間アユ子	新潟西蒲	松野尾小学校
	小見芳太郎	長岡西	上川西小学校
	加藤 雅晃	村 上	金屋小学校

役職	氏名	支部	校名など
専門部	◎小竹 智	新潟秋葉	小合中学校
	○小泉 浩彰	新潟東	東石山中学校
	柳沼 宏寿	大学	新潟大学教育学部
	松井 裕美	新潟中央	南万代小学校
	佐藤 文俊	新潟北	早通中学校
	島垣 武	新潟中央	新潟市歴史文化課
顧問	中川 幸次	長岡東	自宅
	江口 直禎	新潟中央	自宅
	大閑 雄策	新潟中央	自宅
	安藤 耕平	新潟西	自宅
	磯辺 浩昭	新発田	自宅
	藤井 保男	新潟東	自宅
	斎藤寿一郎	新潟東	自宅
	佐藤 重勝	新潟秋葉	阿賀野市教育委員会
	安達 徹	新潟西蒲	新潟市立総合教育センター
	臼杵 勇人	新潟北	葛塚東小学校
新潟大学全学同窓会	里村 俊夫	新潟西蒲	自宅
	加藤 文子	新潟中央	特別支援教育サポートセンター
	小竹 正子	新潟西	自宅
	岡村 浩	大学	新潟大学教育学部
	カード事業	駒澤 一彦	新潟西

平成27年度 同窓会学科代表

	学科名	学科代表	校名など
1	国語	伊藤 守	水原小学校
2	地理	川瀬 隆史	江南高等特別支援学校
3	歴史	津野 治彦	新潟市総合教育センター
4	経済	長沼 智之	上越教育大学
5	哲倫	田口 秀行	上越教育大学大学院
6	社会	土田 宏美	新道小学校
7	算数(親詫会)	遠藤 友春	村上小学校
8	数学	橋谷田 登	新潟市教委教育総務課
9	物理	茂呂 良彦	保田小学校
10	化学生物	栗林 操	三川小学校
11	生物学	緒方 猛	新潟市教育委員会地域教育推進課
12	地学	高橋 克哉	東小学校
13	英語	佐藤 政志	下越教育事務所
14	音楽	斎藤 隆	濁川中学校
15	美術	永井 高志	越前小学校
16	保健体育	古川 淳	葛塚中学校
17	家庭〔萌木会〕	津野 敏江	新潟大学全学教職支援センター
18	職業指導	松村 明彦	東新潟中学校
19	教育	山岸 真夫	自宅
20	教育心理	小林 広紀	曾根小学校
21	技術	小川 裕一	濁川中学校
22	特別支援教育	中村 美紀	附属特別支援学校
23	養教特別別科	波多野真奈子	明鏡高等学校
24	児童教育	近藤 和徳	新津第一小学校
25	学社ネットワーク	小柳加奈子	田上町役場
26	生活科学	眞邊麻依子	安田中学校
27	生活システム	大森 山	城西中学校
28	健康スポーツ	大口 良平	大町小学校
29	書道	岡村 浩	新潟大学教育学部

平成27年度 同窓会支部長

地域	番号	支部	支部長	校名など
中越	1	上越	仁田 秀三	南川小学校
	2	長岡東	三澤 淳伸	中越教育事務所
	3	長岡西	木曾 隆一	越路小学校
	4	三条	吉田 孝則	大面小学校
	5	柏崎・刈羽	長谷川正人	鯨波小学校
	6	小千谷	鈴木 康幸	東山小学校
	7	加茂	藤田 敏樹	須田小学校
	8	十日町・津南	木村 健司	川治小学校
	9	見附	内山 晋	見附小学校
	10	燕	渋木 保之	栗生津小学校
	11	魚沼	田村 達	小出小学校
	12	南魚沼	熊倉 隆司	北辰小学校
	13	弥彦	坂井 育男	弥彦小学校
	14	田上	原 秀栄智	羽生田小学校
	15	湯沢	種村 公夫	湯沢小学校
	16	出雲崎	長尾 昭浩	出雲崎小学校
下越	17	新潟北	古川 淳	葛塚中学校
	18	新潟東	脇野 哲郎	下山小学校
	19	新潟中央	松野 孝雄	万代長嶺小学校
	20	新潟江南	今井 真悟	早通小学校
	21	新潟秋葉	田中 正栄	満日小学校
	22	新潟南	小林 靖直	根岸小学校
	23	新潟西	杉中 規彦	黒埼南小学校
	24	新潟西蒲	大坂 宏	鎧郷小学校
	25	新発田	相澤 祐助	東豊小学校
	26	村上	遠藤 友春	村上小学校
	27	五泉	神田 武司	村松小学校
	28	阿賀野	小林 由明	安野小学校
	29	胎内	伊藤 博	胎内小学校
	30	聖籠	佐藤 紹夫	蓮野小学校
	31	阿賀	藤崎 善之	三川小学校
	32	関川	今井 学	関川中学校
	33	粟島浦	本保 次世	粟島浦小学校
	34	佐渡	渡部 栄二	八幡小学校

平成26年度 一般会計決算報告

1. 収入の部

項目	26年度決算額	26年度予算額	摘要
1 繰入金	7,900,000	7,900,000	総合会計から繰入れ
2 雑収入	272	200	銀行利息
合計	7,900,272	7,900,200	

2. 支出の部

項目	26年度決算額	26年度予算額	摘要
1 会議費	125,287	100,000	会計監査、本部会、評議会、役員会等
2 旅費	171,702	250,000	役員旅費
3 助成費	440,700	500,000	学科助成、支部助成、学課助成
4 事務局費	457,304	600,000	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、送料等
5 研修費	277,638	400,000	同窓生の集い企画運営費等
6 広報費	1,164,186	1,400,000	機関紙発行・送料、HP作成手伝い、パンフレット作成費用
7 組織費	114,000	100,000	評議会昼食代、首都圏同窓会参加費（2名）
8 交流費	112,784	130,000	交流会企画運営費、参加助成
9 大学・学生支援費	898,000	1,500,000	研修会参加助成、教員採用試験対策助成、卒業祝賀会助成
10 全学同窓会費	960,628	1,000,000	分担金、全学交流会助成、全学同窓会役員旅費等
11 渉外・厚生費	70,000	130,000	祝儀、会場借用費等
12 人件費	1,680,000	1,700,000	事務局報酬2名
13 その他予備費	26,978	90,200	ビデオ購入
合計	6,499,207	7,900,200	

3. 残高の部 7,900,272円 - 6,499,207円 = 1,401,065円は、総合会計に繰り入れます。

平成26年度 総合会計決算報告

1. 収入の部

項目	26年度決算額	26年度予算額	摘要
1 会費	3,590,352	3,470,000	会費 - 振込手数料
2 永年会費	10,059,524	10,087,800	永年会費 - 振込手数料
3 繰越金	31,605,632	31,605,632	
4 年度末繰入金	1,401,065	0	一般会計残金
5 雑収入	4,476	1,068	銀行利息
合計	46,661,049	45,164,500	

2. 支出の部

項目	26年度決算額	26年度予算額	摘要
1 一般会計繰入金	7,900,000	7,900,000	

3. 残高の部 46,661,049円 - 7,900,000円 = 38,761,049円は、平成27年度総合会計に繰り越します。



教授 柴田 透 (社会科) 一月一日付昇任 六月一日付昇任 飯野由香利 (家庭科)	○新しくおいでになった先生 准教授 平尾 篤利 (技術科) 四月一日付採用	○学部を去られた先生 教授 高橋 桂子 (家庭科) 三月末日付退職 福島 愛 (特別支援教育)
---	---	---

大学教官の異動

(昨年の七月以降)

平成27年度 一般会計予算

1. 収入の部

項目	27年度予算額	26年度予算額	摘要
1 繰入金	8,180,000	7,900,000	総合会計から繰入れ
2 雑収入	400	200	銀行利息など
合計	8,180,400	7,900,200	

2. 支出の部

項目	27年度予算額	26年度予算額	摘要
1 会議費	120,000	100,000	本部会、会計監査、評議会、役員会等
2 旅費	200,000	250,000	役員旅費、会員旅費
3 助成費	500,000	500,000	学科助成、支部助成、同期の会助成
4 事務局費	600,000	600,000	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、送料等
5 研修費	400,000	400,000	同窓生の集い企画運営費等
6 広報費	1,600,000	1,400,000	機関紙発行、封入代、送料、H.P.、パンフNo.5作成
7 組織費	120,000	100,000	支部長・学科代表者会、名簿メンテナンス代等
8 交流費	120,000	130,000	交流会企画運営費、参加助成
9 大学・学生支援費	1,500,000	1,500,000	研修会参加助成、教員採用試験対策助成、卒業祝賀会助成同窓会カレンダー作成、教職大学院設置特別祝儀等
10 全学同窓会費	1,000,000	1,000,000	分担金、全学交流会助成、運営委員旅費等
11 渉外・厚生費	120,000	130,000	祝儀、会場借用費等
12 人件費	1,800,000	1,700,000	事務局報酬2名、ホームページ手伝い料
13 その他予備費	100,400	90,200	
合計	8,180,400	7,900,200	

平成27年度 総合会計予算

1. 収入の部

項目	27年度予算額	26年度予算額	摘要
1 会費	3,420,000	3,470,000	会費 - 振込手数料
2 永年会費	10,000,000	10,087,800	永年会費 - 振込手数料
3 繰越金	38,761,049	31,605,632	前年度繰越金
4 雑収入	3,951	1,068	銀行利息など
合計	52,185,000	45,164,500	

2. 支出の部

項目	27年度予算額	26年度予算額	摘要
1 一般会計繰入金	8,180,000	7,900,000	

◎全学同窓会交流会のご案内

全学同窓会が平成十六年に創立して十年たちました。それを記念して十月二十四日(土)に十周年記念交流会が開催されます。例年懇親会の半額を補助していますので、奮ってご参加ください。詳しい内容が決まりましたら、H.P.でご案内いたします。

◎学科代表・支部長の皆様へ
評議会にご都合があつて出席できなかつた皆様に、助成金をお送りいたしますので、ご確認ください。

お送りします。
代表の方には大変お手数をお掛けしますがよろしくお願いします。
個人会員の方には、個別に振込用紙をお送りします。
二十七年会費の納入をお願いします。
県内教職員の皆様は各学校・機関単位での入金となりますので、代表者にお届けください。

事務局だより

◎会費納入のお願い

平成27年7月20日

技術科の活動

荒木教授のご退官を祝う会

代表 小川裕一

(新潟市立濁川中学校)

平成27年2月7日、「荒木教授のご退官を祝う会」をANAクラウンプラザホテルで実施しました。

が次々とよみがえる感動的な場面で、最高のサプライズでした。

技術科は定期的に科の集い等は実施していませんが、荒木教授のご退官を祝つて、全国各地から多くの同窓生が集まり、旧交を温めました。会に集つた方々の年齢層も幅広く、荒木教授が

新潟大学教育学部技術科出身の者は全国各地で中学校の技術科教員として活躍しています。特に新潟県・新潟市では、当教科の指導や研究をリードする存在になつていると自負しています。

新潟大学教育学部に奉職された、昭和53年以來、現在に至るまで、35年間の重みを皆で感じられる会となりました。祝う会では、荒木先生のお話に続き、思い出やエピソードを各年代の荒木研究室代表が語りました。「あんなことあった」「こんなことがおもしろかった」など、当時の思い出に大いに花が咲き、大いに盛り上りました。また、荒木先生のご発案により、卒業時に提出した、卒業論文の返却が行われました。分厚い論文の冊子が、金属研究部所属の卒業生に荒木先生から、一人ずつ、一言を添え、固い握手とともに渡されました。返却された論文を囲んで、あちらこちらで同年代同士の話の輪ができていきました。もうすつかり忘れてしまつていた学生時代の記憶

「首都圏の同窓会活動」

首都圏同窓会教育学部 代表

岡崎登志夫 (昭和五十一年卒)
(ヤマザキ学園大学)

私達は、首都圏在住の新潟大学教育学部の卒業生です。首都圏には工学部、医学部、歯学部、人文・法・経済学部、農学部、理学部、教育学部の各同窓会があります。首都圏同窓会の発足は五十年前ほど前、医学部、工学部の卒業生が、新宿の居酒屋などで親睦の会を開いていたのがきっかけだそうです。これが定例会化し、毎月第二水曜日にみんなで集まろうということで、「二水会」ができました。二水会には、首都圏の各学部同窓会の中心的メンバーが集まり、いわば幹事会的役割を果たしています。長らく新宿の「鍋茶屋」で会を開いていましたが、一昨年閉店したため、現在は、その隣の「どんぐり」というスナックでこの会を開いています。また、納涼会、ゴルフコンペなどの楽しい催しや機関誌「六華」の発行を行っています。

首都圏同窓会の総会は、毎年各学部同窓会が輪番で主催しています。主催学部は、総会の案内状の作成、各学部への案内状配布の依頼、会場の手配、講演者の人選と依頼、受付や司会担当、総会運営などを担当することになります。ところが、長らく教育学部は首都圏に同窓会がなかつたため、総会幹事からはずされていました。



第四十三回新潟大学首都圏同窓会を主催することになりました。総会には大学から高橋姿学長はじめ、教育学部の鈴木賢治学部長にもご参加いただき、講演は、昭和四十八年卒で、世界的ヴァイオリニスト、中澤きみ子氏にお願いしました。すばらしい演奏と講演のハーモニーで各学部参加者を魅了しました。

また長い首都圏同窓会史上、初めての女性講演者であり、同じ教育学部同窓生として誇らしい気持になりました。

ありがとうございました。

大学のコーナー

基礎研究の面白さ

副学部長 木村政伸

私の専門は日本教育史、とりわけ近世の民衆の学びを研究対象にしています。教育学の中でも、基礎研究に位置付けられます。基礎研究ということは、別の見方からいえば、「何の役に立つのか?」と言わざかねない分野であるともいえます。私も何度も「江戸時代の教育の事を研究して、今の教育に役立つんですか?」と聞かれました。

あれこれ申し開きしても仕方ないのでは、開き直つて「すぐには役には立ちません!」と答えることもあるのです。基础研究が軽んじられる風潮があるのでも、多少ともそれに抵抗する意味で、ここではひとつ基礎研究の面白さを述べみたいと思います。

基礎研究の一番の醍醐味は、何物にもとらわれないで物事を考えることです。別の言い方をすると、「そもそも論」から始められるということです。「そもそも論」とは、「ちやぶ台返し」をやるということです。現在の社会は、さまざまな常識や社会通念、制度の上に成り立っています。例えば、子ども

は親から愛され保護される存在である、6歳になつたらランドセルを背負つて小学校に通う、学校には教室があつて教科書を使って先生が一斉授業を行なう、集団行動は社会への準備だ、などなど。そうした前提を疑うこともなく、生まれた時からちやぶ台に乗つていたものを前に生活を組み立てています。でも、本当にそのなのでしょうか。子どもは昔から親から愛されていたのでしょうか。家族は何時の時代も人々の生きがいであり、価値あるものとして考えられていたのでしょうか。学校は、社会で唯一の子どもの学びや育ちの場なのでしょうか。

実は、こうした根本的な問いに答えることは簡単ではありません。そこで、そうした私たちが空気のように感じている様々な常識や制度を、一度「ちやぶ台返し」をしてみています。言い換えると「そもそも」という問いをたて、その考察から私たちが当たり前だと思つてゐる思考枠組みを自覚化し、相対化するのが、基礎研究の面白みということになります。

或る意味この研究は今の制度そのものも相対化しますから、時には学生にとつて劇薬となることもあります。あたりまえと思っていた価値観を否定された学生が戸惑い悩むこともあります。しかし、そうした何物にもとらわれない根源的な問いは、これから社会に出て生きていこうとする若者にとって、本当は重要なことだと思います。

近年、オープンキャンパスなどでは、高校生や保護者の関心が卒業後の就職先に集まる傾向があります。出口から逆算して入口を考えているようです。

つまり就職に有利不利を基準に進学先を決めているようです。また、「即戦力」だとか、「すぐに役立つハウツー」を求める風潮が強まっており、大学もそれに応えざるを得ない状況もあります。目の前に展開する課題にどう向き合うか日々苦闘している人たちにとって、こうした具体的実践的な知識や技能が求められていることも十分に理解できることです。

でもその中で、ちょっと歩みを止めてしまふ足下を見つめ、自分の拠つて立つ地面がどのようなものであるかを振り返ることも、実は大事なことだと思います。

ところで、こうした「そもそも論」は、大きく二つの方法があります。一つは私が取り組んでいる歴史研究です。時間軸を違えること、例えば百年前、

二百年前では子どもはどのようにして育ち、何を学んでいたのかを調べ、その過程を通して学校化された今日の子どもたちの学びや育ちを相対化することができます。例えば、江戸時代には、通過儀礼や祭礼などの習慣が子どもを一人前に育てていく重要な役割を負つていたことが明らかになります。また、

子どもが自ら世間でもまれ、恥をかいたり失敗したことから学んでいく姿が見えます。現代のように親や教師が「教える」のではなく、子どもが主体的に「学ぶ」システムなのです。

もう一つの方法は、空間軸を違えることです。つまり、今的生活空間から離れて、例えば西日本ではどうなのか、アメリカでは、ヨーロッパでは、インドでは:と異なる空間で展開されている事実と比較することです。私は、アメリカに一年、インドに通算して半年ほどいましたが、日本の常識が全く通用しない世界に驚きました。こうした経験が私たちの視野を広げてくれます。学生たちにも、できるだけ海外に行つて、観光に留まらないいろんな経験をするように勧めています。

基礎研究は、すぐには役立ちません。しかし、それ抜きの「すぐ役立つ」知識は「すぐ役立たなくなる」こともよくいわれることです。これからも、基礎研究の面白さと重要性を訴えていきたいと思っています。

講演会

今 海外は安全なのか

～日本人が気を付けなければならないこと～

期日

平成27年

9月26日(土)

13時30分受付開始

入場無料
どなたでも入場
できます

講師

外務省 領事局海外邦人安全課

邦人援護官 ほうきだ
伯耆田 おさむ 修 氏

会場

ホテルラングウッド新潟（旧チサンホテル）
新潟駅南口直結 ☎025(240)2111



日程

13:30 ▶	受付
14:00 ▶	開会
14:15 ▶	講演会
15:45 ▶	移動
16:00 ▶	懇親会
18:00 ▶	

懇親会

～「第42回同窓生の集い」のお誘い～

新潟大学教育学部の同窓生の方は懇親会に参加できます。参加希望の方は、会場準備の都合がありますので、9月17日までにご連絡ください。会費は3000円です。

新潟大学教育学部
同窓会事務局

tel&fax 025(263)6760

mail:

dousou@ed.niigata-u.ac.jp

※火曜から金曜までの13:00から17:00の間にお願いいたします